

氏名	西 条 仁 子		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2455 号		
学位授与の日付	平成 4 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	妊婦の血液レオロジーに関する研究, 特に赤血球変形能の変化およびその要因について		
論文審査委員	教授 木村 郁郎	教授 岡田 茂	教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

妊婦の血液レオロジーに関連して, 赤血球変形能を電子スピン共鳴法を用いて測定し, 赤血球膜の粘弾性に影響を及ぼすと考えられる因子を検討した結果, 次の成績を得た。

1. 赤血球変形能は, 正常妊娠時には非妊時と比較して有意に低下し, 中毒症ではさらに低値を示した。
2. 赤血球内ATP値は, 非妊時, 正常妊娠時, 妊娠中毒症の間に有意差は認めなかった。
3. 赤血球膜遊離コレステロールは, 非妊時と比べて正常妊娠時, 有意に低下したが, 中毒症では非妊時よりは低いものの, 正常妊娠に比較して有意差は認めなかった。
4. 赤血球膜リン脂質は非妊時, 正常妊娠時, 中毒症間で有意差を認めなかった。
5. Lecitin-cholesterol acyltransferase (LCAT) は, 非妊時に比べて正常妊娠後期には有意に高値を示したが, 中毒症では後期と同程度で, 有意差は認めなかった。

以上の結果より, 妊娠時, 赤血球変形能が低下する機序として, LCAT活性の増加と, 赤血球膜遊離コレステロールの減少が関与しているものと考えられる。妊娠中毒症で正常妊娠よりさらに赤血球変形能が減少する成因としては, 他の因子が関与していることが示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は妊婦の血液レオロジーについて特に赤血球変形能の変化について電子スピン共鳴法を用いて研究したものであるが, 従来殆ど検討されていなかった妊娠時の変形能の低

下について、その機序としてLCAT活性の増加と赤血球膜遊離コレステロールの減少が関与していることを認め、なお妊娠中毒症では更に過酸化反応など他の諸因子が関与していると考え、重要な知見をえたものとして価値のある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位をえる資格があるものと認める。